

傳策問舎原氏

廿九

特 別

Λ13

4274

29



周
真
画



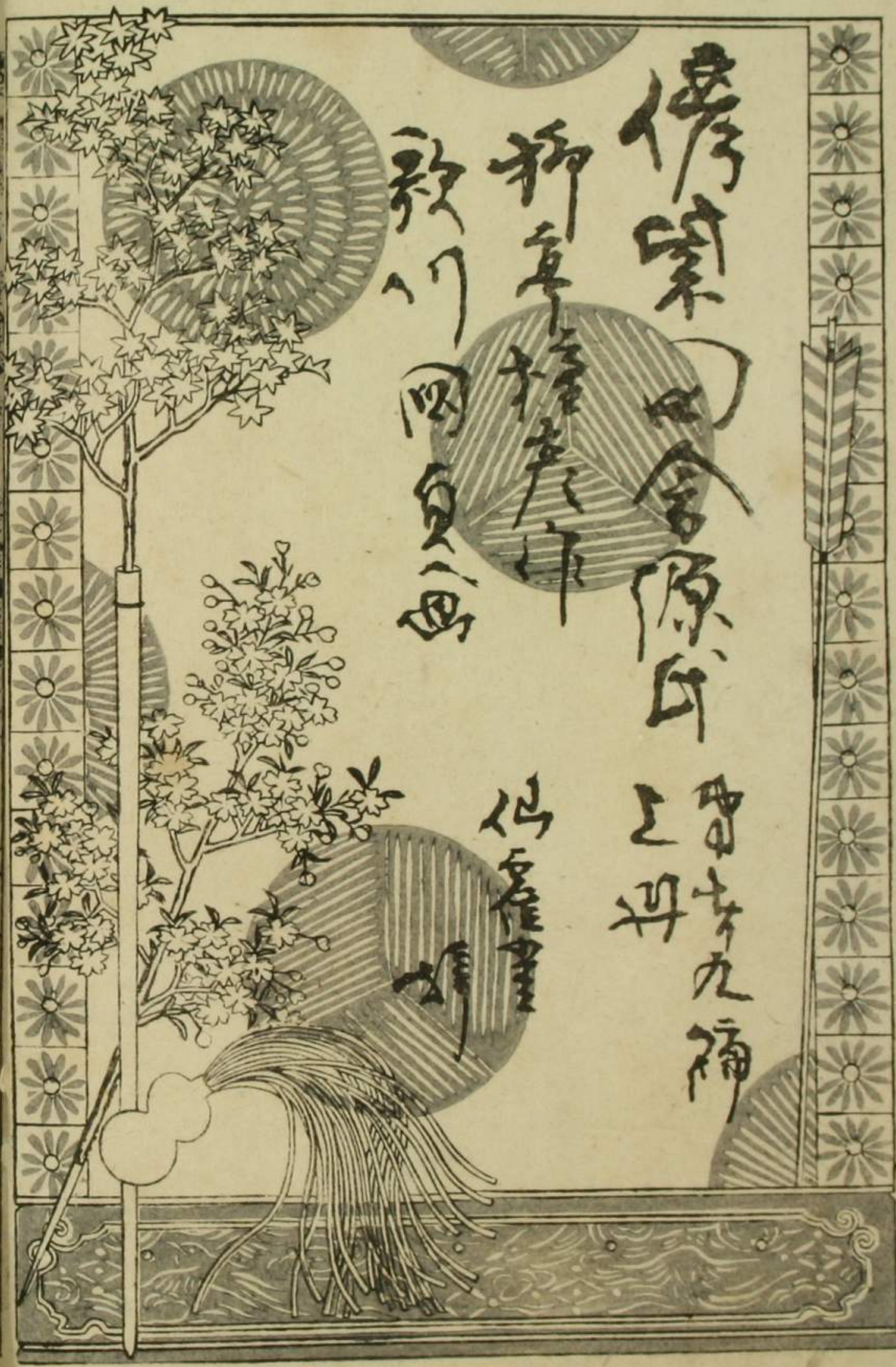
九
編
上

源氏物語の巻目
第九編

柳年種彦作

秋河四頁二画

仙居書



源氏物語 第九編序



小君山房方決定家卿の日記と云るる善悪圖傳を悪玉踊りの書の事
の似む義經も弁慶も見えぬいふと雜トる座奥を最をうし
予合てつら病の林示厭ふ鞍馬山に登るとい實僧正不劍術と云る
五條あつた夕顔の病ででの千人斬亀井片岡伊勢の齋院海尊
る常陸宮石橋山の伏木と大君が外あ雀が花いで朧月夜の
扇の的を桂樹が小弓で射させ山名の討ちが鶉越を坂あ一の
須戸の巻彼浦での所被の日浪風あつた光氏が船の危さるところへ
抑これいと知盛の幽霊があつて悪源太の亡魂がる雷とわらりて
桂川の鶉飼の鶴が名劔と唾へあけ忠信と空蟬の基盤哉

るはて敵とあせき。遠坂の関の日一も富樫が留るといふやうな彼旗色の
 紅白源氏平家の事まで終りて入るべをうからんが初めを更ふ心の
 つらがり。諸士の編み鈍色の袖をかへて入日と招く。流雲をとりて
 朝顔も宗盛の事へる。五郎の舞ふ静も出され八艘飛舟浮舟
 ありへうつらふと思ひ。田貫が切腹の儀式初の本本ふとあるとあれが
 例の我儀どうやう琵琶でうひさうする伏見常盤をそのめりあつた彼
 雜向を防がらぬ丁度所も堀川夜討女似氣る。何と兵慶懐
 の相狭子あつ七ツ道具のありのやせんと拍子よかつて書つたを光
 源氏と源とが混雜て予れみも分らぬ。見あふ人の狩更ふ夏の浮橋
 こゝろへて未だまのいおつるなれども二十帖稿を脱ま

柳亭種彦



菊咲の母
 鏡蔓

菊咲

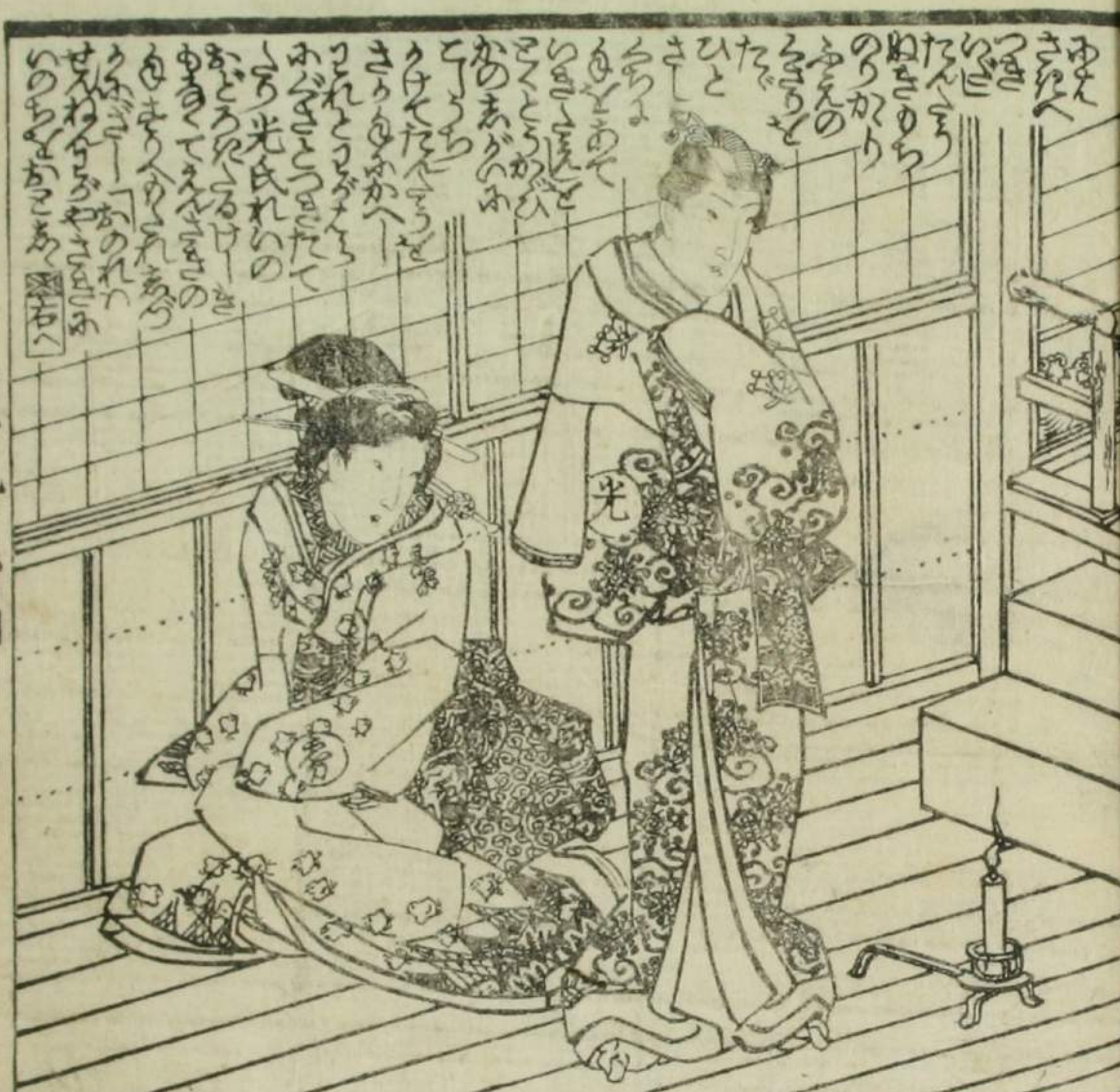
権の齋院ふ比

何とて
あふかえ
んえん
人のうい
かりと
は
んえかり

つを
るを
昔
あり
怒
ん
こ
人の
つ

そ
ふ
は
り
れ

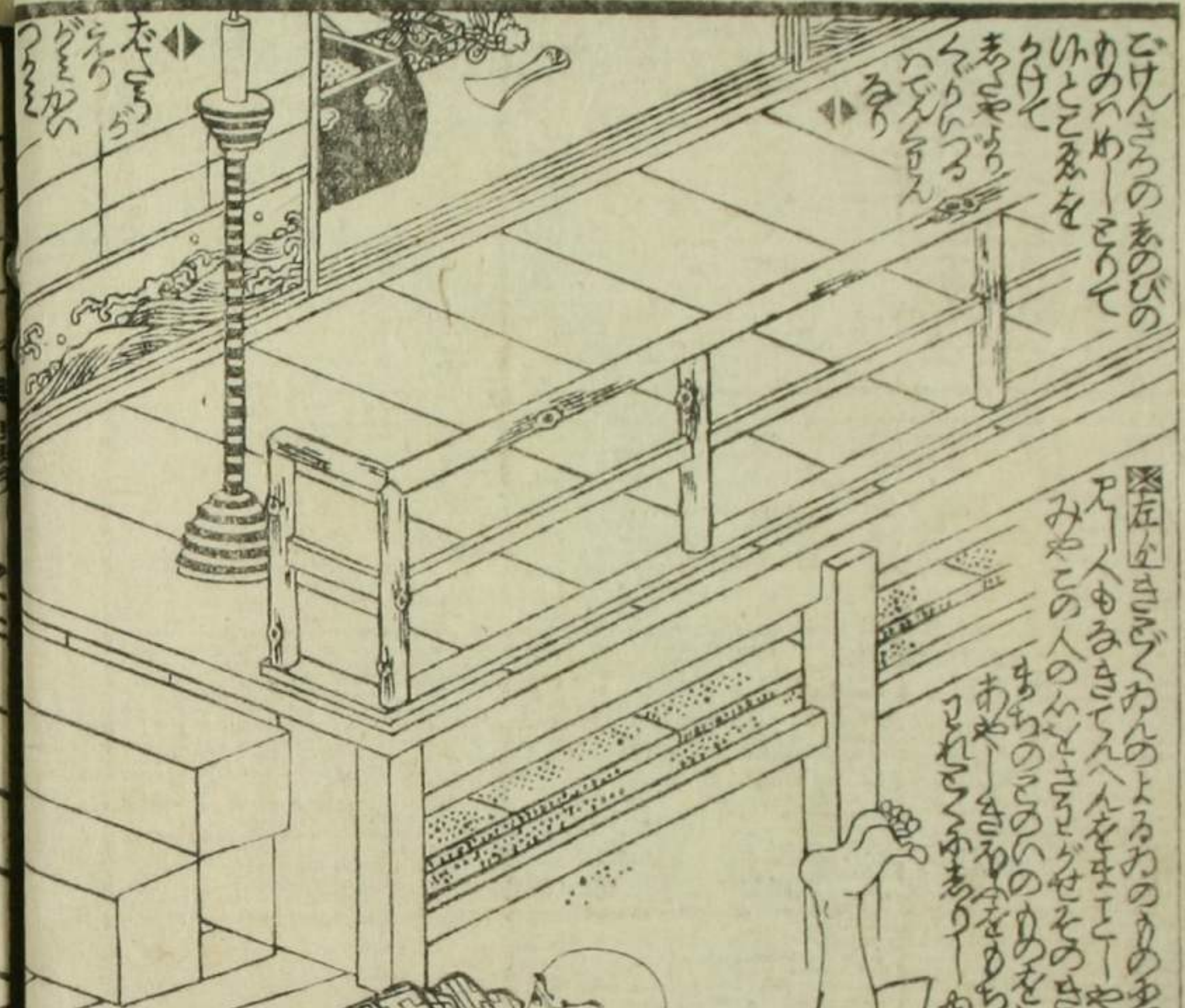




ごせんちのまのびの
ゆのゆいこのて
ひとこをを
くはて
あまのり
くひつる
ひんげん
る

あてがどうへきちのまのびの
あてがどうへきちのまのびの
あてがどうへきちのまのびの
あてがどうへきちのまのびの
あてがどうへきちのまのびの
あてがどうへきちのまのびの
あてがどうへきちのまのびの
あてがどうへきちのまのびの
あてがどうへきちのまのびの
あてがどうへきちのまのびの

光



あまのり
くひつる
ひんげん
る

あまのり
くひつる
ひんげん
る

あまのり
くひつる
ひんげん
る

光

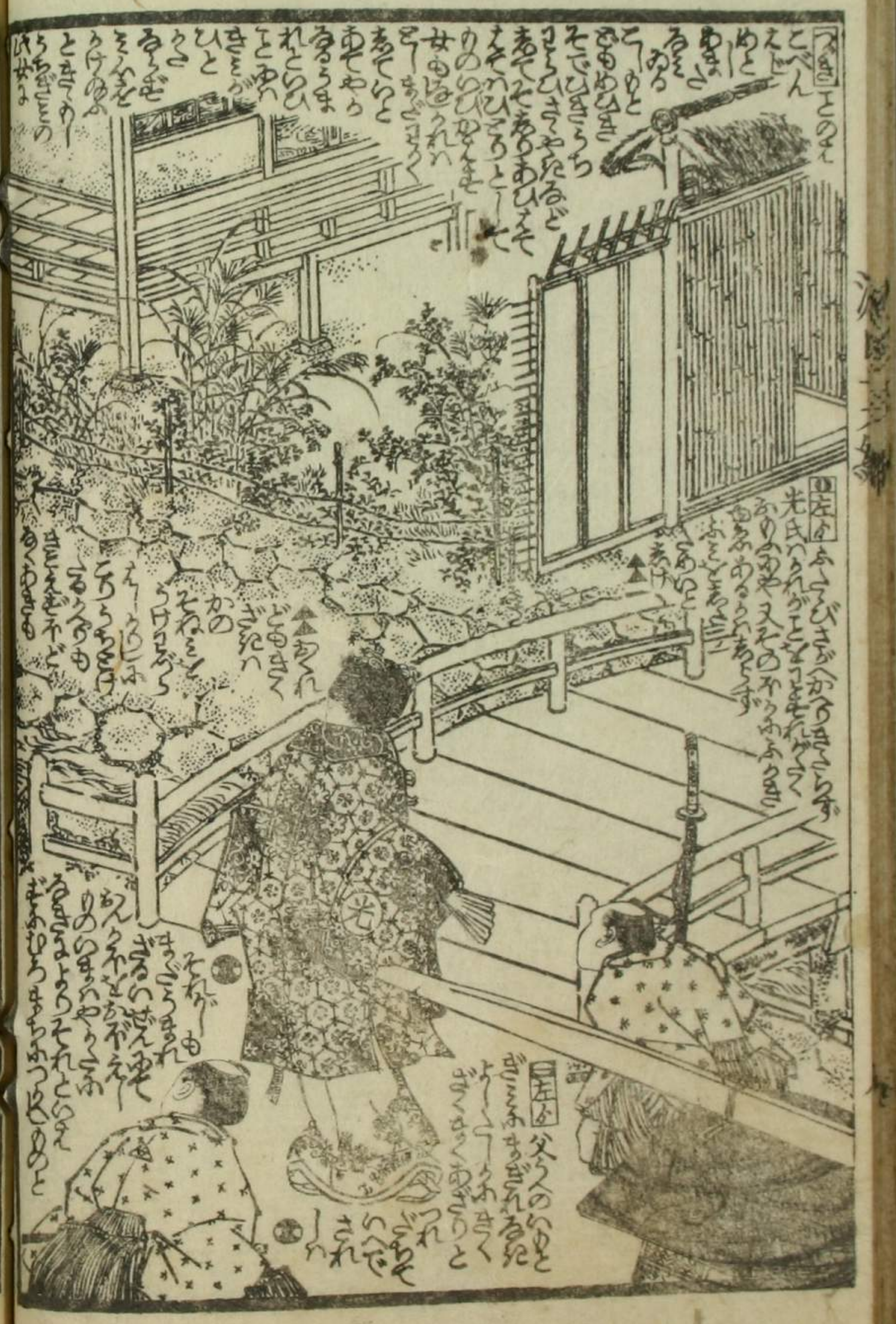
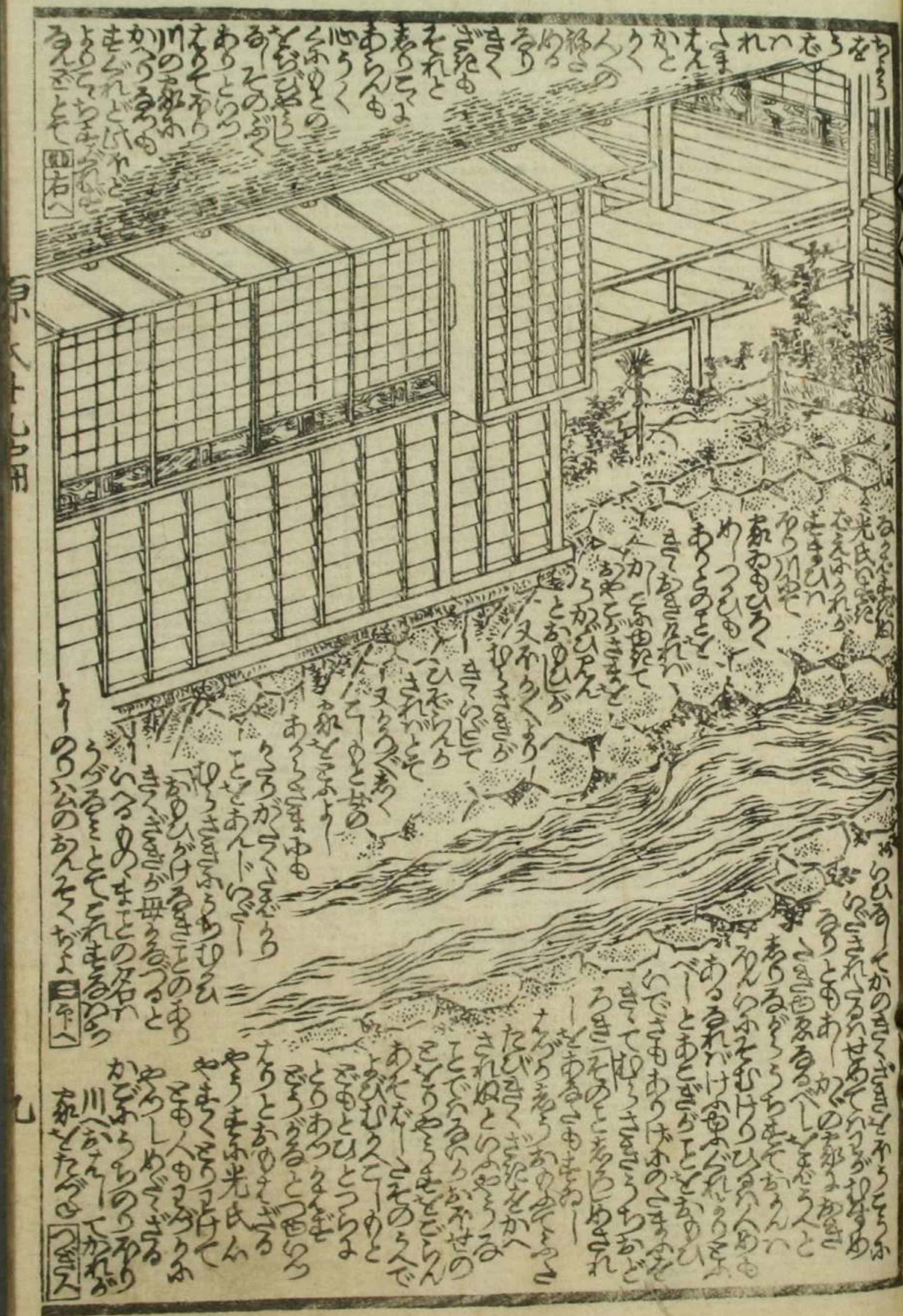
光

ついでさうおひきようさう
ついでさうおひきようさう
ついでさうおひきようさう
ついでさうおひきようさう
ついでさうおひきようさう
ついでさうおひきようさう
ついでさうおひきようさう
ついでさうおひきようさう
ついでさうおひきようさう
ついでさうおひきようさう

ついでさうおひきようさう
ついでさうおひきようさう
ついでさうおひきようさう
ついでさうおひきようさう
ついでさうおひきようさう
ついでさうおひきようさう
ついでさうおひきようさう
ついでさうおひきようさう
ついでさうおひきようさう
ついでさうおひきようさう

ついでさうおひきようさう
ついでさうおひきようさう
ついでさうおひきようさう
ついでさうおひきようさう
ついでさうおひきようさう
ついでさうおひきようさう
ついでさうおひきようさう
ついでさうおひきようさう
ついでさうおひきようさう
ついでさうおひきようさう





江戸御曆開板所

國貞画種彦作

國貞の画は、その筆致の清麗さと、人物の神韻に優れている。この巻には、名士や美人の姿が描かれており、見る者の心を魅了する。また、自然の風景も繊細に表現されている。種彦の作は、その構図の巧みさと、色彩の調和に特徴がある。この二名の画は、まさに江戸の文化を代表する傑作である。



この画は、種彦の筆によるもので、その筆致の清麗さと、人物の神韻に優れている。見る者の心を魅了する。また、自然の風景も繊細に表現されている。國貞の作は、その構図の巧みさと、色彩の調和に特徴がある。この二名の画は、まさに江戸の文化を代表する傑作である。

東都禾木園宗匠校輯

飽傳芳村集 全二冊

飽傳叢蘭集 全二冊

東都禾木園宗匠校輯

飽傳今人附合集 全四冊

新刊板

継 今四歌仙全冊

田舎源氏友相抄

田舎源氏友相抄の巻は、源氏物語の一場面を描いたものである。その筆致は、源氏物語の優雅さをよく表現している。また、人物の表情も細かく描かれており、見る者の心を魅了する。

俳諧 今人附合集

所子遊袋入

小繪

火焚

茶番

種彦聞書

貞秀画圖

江戸御曆開板所

鶴屋喜右衛門

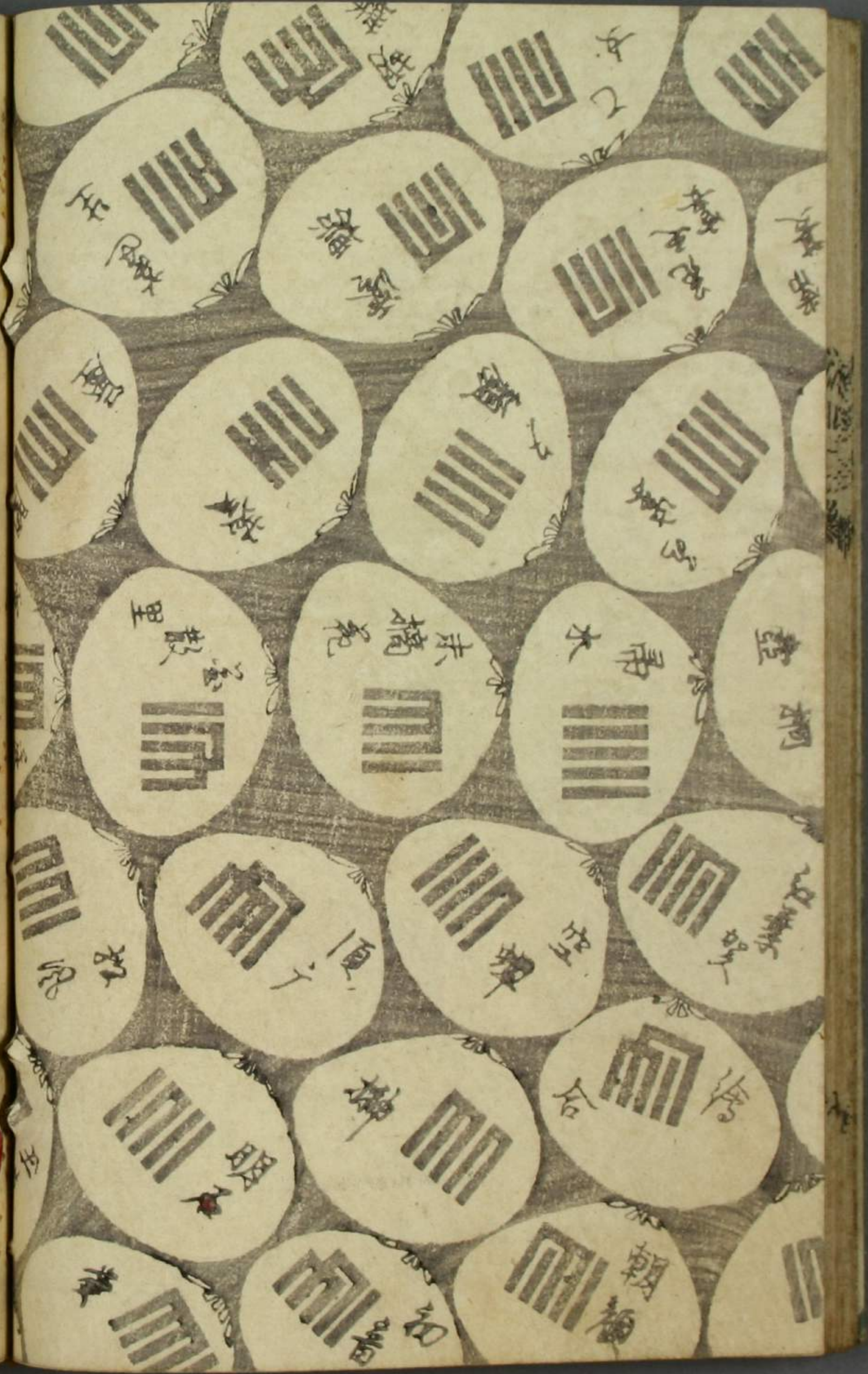


九
九
編
下

小
娘
好

日
余

子





三十一

此の
 朝の
 光の
 影

三
 三
 三



通
 得
 善
 美
 好

種
 良
 作
 田
 貞
 画

為
 下
 丹

年
 七
 九
 等



京大士山吉



赤松太郎

高直

改名

廣廉

十五

